

2026 (令和 8) 年 3 月 1 日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長: 河野良文) 〒630-8133 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742(61)6312 Fax/0742(61)0473

<https://www.daijanji.or.jp/jdgn>

編集: 横山 香 (pnhkmts@yahoo.co.jp)

● 行事報告 (1)

クリスマス会を開催しました

2025年12月7日(日)の17時30分から、近鉄奈良駅そばの「野菜ダイニング 菜宴」にて恒例のクリスマス会を開催しました。31名の参加者で、美味しいお料理をいただきながら1年間の活動を振り返りつつ和やかに親睦を深めることが出来ました。



ザクシンガー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事はご都合がつかず欠席でしたが、代理として飛鳥井たまき様が、ご主人の Dr. マンフレート・ホプフ様とご参加くださいました。飛鳥井様は2004年から2025年まで22年間、8代の総領事の通訳を務めてこられた方で、奈良日独協会も長年にわたり大変お世話になりました。この度ドイツ人のご主人とのご結婚を機に領事館を退職され、ドイツに移住されることになりました。クリスマス会では、ご主人との馴れ初めなどもお聞かせください、今後はご夫婦で奈良日独協会の海外会員になることを承諾してくださいました。

また、新入会員の由本真理さん、奈良女子大学に留学中のマラ・シュレーダーさん、前田涼汰さん(天理大学3年生)、神村覚さん(立命館大学大学院修士課程2年生)からも一言ずつ、自己紹介や日々の取り組みや体験をお話いただきました。さらに余興では平尾英治さんが今回も自作のドイツ語歌詞で日本の歌を歌ってくださり、盛り

上がりました。最後は恒例のドイツのクリスマス曲やベートーヴェンの「喜びの歌」、「ふるさと」などをみんなで声を合わせて歌って、楽しい時間を過ごすことが出来ました。参加してくださった皆さま、素敵な時間をご一緒してくださり、どうもありがとうございました。

小山 泰子 理事

● 近畿圏日独協会

合同新年会が開催されました

2026年1月16日(金)の19時から、梅田のニュートーキョー第一生命ビル店において、近畿圏の日独協会による合同新年会が開催されました。

大阪、神戸、京都、和歌山、大津、そして奈良の各日独協会のメンバー約40人が参加し、またザクシンガー総領事もご出席され、飲み放題のビールやワインとドイツ風料理、そして会の垣根を超えた歓談で、会場は盛り上がりました。



ザクシンガー総領事からは、近畿圏の各日独協会と、相互の協力関係の発展を期待したいとのお挨拶がありました。各会の代表者からも活動状況報告があり、本会の中務局長からは、日頃の活動報告と、個人的に関わっている能登の災害復興支援活動を将来的にドイツで展開させていきたいとの抱負が語られました。

今回のとりまとめをしていただいた大阪日独協会 角谷様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

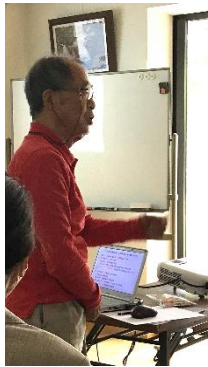
横山 香 理事

● 行事報告(2) シュタムティッシュを 開催しました

- 開催日時：2025年10月19日(日)
14:30~16:00
- 会場：大安寺催事棟
- タイトル：「インド八大仏跡巡拝の旅12日間」
- 演者：峯本 晴輝様(奈良日独協会会員、元理事)
- 参加人数：16名

銀杏が豊かな実りを迎えた頃、第31回シュタムティッシュを開催しました。今回は事務局のある大安寺にちなんで仏教に基づくテーマで、会員の峯本晴輝さんに御釈迦様の生涯を辿る旅をご紹介いただきました。

意外にも、現代インドの宗教分布において仏教は1割未満の極少数派になっているそうです。とはいえやはりその発祥国であることから、御釈迦様の生誕の地【ルンビニ】で発掘されたアショーカ王の石柱、入滅の地【クシナガール】のラーマバル・ストゥーパをはじめ、古代からの遺産が大切に保存され、国の象徴である国旗のデザインや国花として今なお重んじられている様子が印象的でした。



そして仏教の三大聖樹【無憂樹・沙羅双樹・菩提樹】に話が及ぶと、植物学に精通されている加藤禎孝先生から「ドイツ語のder Lindenbaumが表す菩提樹とは別種である」との解説が加わったことで、仏教とドイツ語が交差するという当協会ならではの展開となり非常に盛り上がりました。

また、峯本さんにはご趣味とされている絵画もお持ちいただき、ブータンの山岳やベルリンの街角が鮮やかな色彩で異国の雰囲気たっぷりに描かれた作品を拝見しながら、参加者の皆さんとの歓談も弾んで楽しかったです。

素晴らしい学びの秋・芸術の秋を満喫できる会になりましたこと、厚く御礼申し上げます。



米田 真理子 理事

● 行事報告(3) ドイツ料理教室を 開催しました

- 開催日時：2025年11月29日(日)
13:30~16:00
- 会場：奈良市生涯学習センター3階キッチングループ
- 講師：土井ギーゼラ先生、土井通靖先生(奈良日独協会会員)
- 参加人数：16名

今回の調理メニューは、「Sachertorte(ザッハトルテ)」でした。冒頭、土井ギーゼラ先生から「今回のテーマは、いろいろ試作してみたが、大変難しかった。本日は、美味しいと言える作り方で進めていきます。良く聞き、私の作り方を見て下さい」とのお話が心に響きました。調べてみると、このケーキは、作る工程で難しい作業があり、高度な部類に属するとのことでした。

まずケーキの生地作り—ダーククーベルチュールチョコレート(カカオ分55%以上)を湯煎で溶かす。卵を卵黄と卵白に分ける等いくつかの工程を経て、170°Cのオーブンで50分焼く。その後、20分間冷やす。ここで紅茶や旬の柿を頂き休憩時間を取りました。その後、最後の工程です。表面を上記のチョコレートでコーティングしました。

先生方は、各テーブルを頻りに回ってくださり、デモンストレーションを見つつ実習を進めました。出来上がったケーキの粗熱を取り、各班で切り分け、容器に入れて持ち帰りました。受講生は、上記の工程を分担して作りました。会の終わりに、土井通靖先生から、冷蔵庫でよく冷やせば、良い食べごろになるとのアドバイスがあり無事終わりました。

翌日、カカオの風味とアプリコットの甘酸っぱい、ずっしりとした濃厚な味わいを楽しむことが出来ました。ご家庭で、特別な行事やイベントで是非作っていただければ幸いです。

今後も皆様のご意見を頂きながら当料理教室のより良い運営を目指して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

できあがった →
ザッハトルテ



↓ 先生方による
手順の説明



松本 俊郎
理事

河野会長のドイツ訪問記 ～ドイツへの夫婦旅(中 その1)～



(『Neues in Nara Nr. 92』からの続き)

ラインシュタイン創立 100 周年の記念行事を済ませ、ケルンのメラテン墓地にある先代の墓参やその後の手続きなどを済ませた 5 月 26 日の夕刻、私たちはマトイス夫妻の車に便乗してビーレフェルトへと向かった。デュッセルドルフから北東へ 150 キロほど、人口 30 数万人の静かで美しい街。奈良市と同規模の町だが、中心部から少し離れると郊外は広々とした田園が広がっている。マトイスご夫妻の住まいは、ビーレフェルト大学や音楽堂などがある文教地区の一角で、美しい公園の中の瀟洒な建物だった。ユルゲン・マトイス氏はビーレフェルト独日協会の会長であり、ご夫人の桂子さんは、画家として個展を開くなど活躍しておられる。拙寺には先代の頃から度々来られており、家族ぐるみの付き合いである。今回は私たちと一緒に旅行して案内下さることになっている。

27 日の朝、ビーレフェルトの街中を散策し、ホテルで朝食をとっていると、夫妻が迎えに来てくれた。今日はカッセルから旧東ドイツとの国境の村イフタを通り、アイゼナハまで行くという。コースはユルゲン氏にお任せだ。陽気にアウトバーンを走りつつ、ユルゲン氏がドイツ語と英語でドイツの現状や未だに残る東西分断のしこりと経済格差などを説明してくれる。長閑な田園風景の中にも問題はいろいろと残されているようだ。桂子さんが通訳をしてくれ、私の稚拙な英語が挟まり、また、夫人同士の会話が弾む。

ビーレフェルトを出て 1 時間ほどでデトモルトの古城につく。16 世紀ころの古城で、外見の質素な形に比し、中はフランスのロココ様式を取り入れた煌びやかな装飾や絵画に覆われ、当時の王侯貴族の生活を垣間見る思いがした。1 階は侯爵の執務室や寝室など、2 階が夫人の居所であった。夫人の方が上だとユルゲン氏は片目をつぶり、私も然りと同調した。

カッセルに昼前に到着。ヴィルヘルムスヘーエという古城と公園が有名で、世界遺産でもある。

山の頂上には大きなヘラクレスの像があり、中腹のパレスに向けて階段状に水が流れる仕掛けになっている。5 月から 10 月の土日などに 75 万リットルという大量の水が一気に流される催しがあり圧巻だという。マトイス氏は「ド※◎▲☆ド※◎▲☆ド」とか「グワン※◎▲★」とか独特のオノマトペで流れる様を説明してくれた。

中腹のパレスは美術館にもなっていて、レンブラントなどの絵画が飾られて観るにあきない。そこからの眺めも素晴らしく、町に向かってまっす

ぐ伸びる道が続いていた。広大な公園のレストランで食事をし、パレス内のカフェでゆっくりコーヒーを楽しみ、優雅なひとときを過ごした。ここはまた、グリム兄弟の故郷でもあり、童話の発祥地としてメルヘン街道の起点でもある。また訪れたいと思える場所だ。



その後、再びアウトバーンを走りアイゼナハに向かう。途中イフタという小さな村の手前で車は道をそれると、前方に鉄柵が見えてきた。3メートルほ



どの高さの柵と鉄条網が左右の丘に向かって伸びている。ここが東西ドイツの境だった所、ベルリンの壁は崩壊したが、一部が当時のまま保存されていた。旧国境がすべてこのように鉄条網で分断されていたのかと思うと、何ともやるせない思いでもあった。

イフタの村は確かに建物の窓も小さく、統制の跡が残っている感じがした。逆に田畑の耕地面積は区画が広く、これもソ連時代のコルホーズやソホーズの影響なのかと思わせた。

夕刻、アイゼナハに入る。かのマルティン・ルターの宗教改革が始まった地であり、バッハ生誕の地でもある。ルターは 16 世紀の初頭、カトリック教会の腐敗を嘆き、免罪符の発行などを批判したかどで罪人として教会から追放された。それをザクセン選帝侯のフリードリヒが城にかくまって支援し、プロテスタント運動に繋がったという。またかくまわれている間、新約聖書のドイツ語訳を行い、庶民に聖書が読まれるようにもなっていたという。そのヴァルトブルク城はアイゼナハの小高い山の上であり、麓から望むお城は崇高だった。私たちは山の中腹の瀟洒なホテルに宿をとり、お城を眺めながらワインで乾杯。素敵な一夜を過ごした。

翌 28 日は、バッハの生まれた家を訪ねる。アイゼナハの市庁舎の近くにバッハの銅像が立っている。そこからほど近くにバッハハウスはあった。

黄色い壁の古い家の中はバッハが過ごした部屋が残され、直筆の楽譜や当時の古楽器などが置かれていた。コンサートルームもあり、チェンバロや当時の小さなピアノでバロック演奏を聴かせる。隣接する新館はバッハに関する様々な資料が並び、音楽にずぶの素人である私でもバッハの偉大な功績を偲ぶことができた。

次号に続く

河野 良文 奈良日独協会会長

● 行事報告（４） 大安寺国際縁日を 開催しました

大安寺国際縁日実行委員会主催、奈良日独協会共催「第14回 大安寺国際縁日～多彩な文化が織りなす国際交流フェスタ～」を、2025年11月3日（月・祝）10時～16時、大安寺境内にて開催いたしました。

獅子吼殿では、ピアノやサクソによる世界各国の音楽が演奏されました。境内の「国際文化交流広場」では、奈良市立春日中学校ギターマンドリン部、アゴラ音楽クラブ（和太鼓）、奈良一条高等学校（English Quiz）、シュミック浄念（虚無僧尺八）

などの団体や個人による特色のある文化・芸能パフォーマンスが披露され、観客席と一体になって楽しみました。

他にも、ベトナムや

ミャンマーの留学生による各国料理など、さまざまな屋台で国際的な食事を味わうことができ、国際縁日の名にふさわしい多彩な出し物で賑わいました。留学生たちは、地域住民や参拝者との交流ができ、日本での今後の生活に活かせる大きな経験になりました。当協会会員も例年より多く参加してくれました。厚くお礼申し上げます。

会員の皆様、ならびにお知り合いの方々に、出店・



アゴラ音楽クラブによる和太鼓演奏

展示などにご関心ございましたら、お気軽にお声がけくださるようお願いいたします。

松本 俊郎
理事

● ドイツの独日協会（ケルン・ビーレフェルト）からお便りが届きました

2025年6月、ケルン独日協会とビーレフェルト独日協会に、本協会 水野理事より将来的な協力・協働関係についてお伺いするメールを出したところ、Dr. Wilhelm Krieger氏（ケルン）、Jürgen Mathuis氏（ビーレフェルト）の両会長より、ご快諾の返信をいただきました。今後、協会間の交流を深める活動を企画できたらと考えています。

今回の「河野会長のドイツ訪問記」ではビーレフェルト独日協会会長の会長夫妻が登場しますが、『Neues in Nara Nr. 92』の「ドイツ訪問記」では、ケルン独日協会との交流に触れています。

- ・ケルン独日協会 Die Deutsch-Japanische Gesellschaft Köln (DJG Köln) URL: <https://djg-koeln.de/>
- ・ビーレフェルト独日協会 Die Deutsch-Japanische Gesellschaft Bielefeld e.V. URL: <https://www.djg-owl.de/>

● 会員だより一会員異動

入会 松井恵子さん

退会 水田典男さん（元理事、12月ご逝去）

ドイツ語会話講座 中級クラス 受講生募集！

- ✓ 学期：2026年度4月より 第1期 4月～6月・第2期 10月～12月・第3期 1月～3月
- ✓ 開講日：一期につき 11回、原則として金曜日 18:15～19:30
(開講日・時間については講師の先生と受講生で調整いたします)
- ✓ 会場：奈良市西部公民館（近鉄奈良線「学園前」駅南口すぐ）
- ✓ 授業料：一期につき ・奈良日独協会会員 30,000円 ・非会員 32,000円
- ✓ 講師：Gisela Doi 先生（前京都女子大学准教授。京都・奈良の様々な大学にてドイツ語を指導）
- ✓ 初回のみ見学無料。受講申込み・問い合わせは eriko.agora@gmail.com（水野）まで